

極楽寺

極楽寺は、宇佐神宮で何世紀にもわたる神仏習合が行われていた時代の貴重な仏像とその他の宗教的な品々を保存しています。極楽寺の創立の経緯や元々あった場所についての記録はありませんが、昭和の大造営（1932～1941 年）の時に仲見世商店街の近くの現在の場所に移されるまでは、宇佐神宮の境内にありました。

極楽寺は浄土真宗の仏教寺院であり、本堂にあるご本尊は、浄土真宗で最も崇拝されている仏である阿弥陀如来の像です。この像の高さは 1.2m で、独特の輝く光背を備え蓮の花の上に立つ阿弥陀如来の姿を描いています。鎌倉時代（1185～1333）に作られたもので、元々は宇佐神宮の大式堂というお堂に安置されていました。大式堂は明治政府が 1868 年に神仏分離を命じ、宇佐神宮が完全に神道の神社になった後に破壊されましたが、この阿弥陀如来の像は保存され、後に極楽寺へ移されました。

同様の経緯で極楽寺にやってきたもう一つの重要な像が、弥勒堂というお堂に安置されている弥勒の大きな 2.8m の座像です。弥勒は遠い将来にこの世に現れて次の仏になる菩薩であると信じられており、この像は成仏した後の弥勒を表しています。この像は室町時代（1336～1573）に彫られたもので、過去に修復者が施した鮮やかな青い髪色などの色と金の仕上げが残っています。かつて宇佐神宮の主な寺院であった弥勒寺の講堂で安置されていたが、弥勒寺も政府による神仏分離令の後に破壊されました。

極楽寺の門と本堂の間には、もともと大式堂にあった阿弥陀如来、慈悲の菩薩である観音菩薩、力の菩薩である勢至菩薩のご真言が書かれている丸い額の複製品があります。本堂の小さな宝物殿には、大式堂の額の原品や人の髪の毛で刺繍された珍しい曼荼羅、弥勒寺の小さな仏舎利塔、複数のお経の巻物やその他の資料などの寺宝が展示されています。

境内や弥勒堂は一般公開されていますが、説明付きのご案内や宝物の見学には事前の通知が必要です。お問い合わせは日本語のみ受け付けておりますので、あらかじめご了承ください。